

令和8年度「全国学力・学習状況調査」大阪市立長吉南小学校の結果

～分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について～

区 名	平野
学 校 名	大阪市立長吉南小学校
学 校 長 名	吉 村 幸 子

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和8年4月に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育局では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育局の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・ 国語
- ・ 算数

(2) 質問調査

- ・ 児童に対する調査
- ・ 学校に対する調査

3 調査の対象

- ・ 国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・ 大阪市立長吉南小学校では、第6学年 36名

令和8年度「全国学力・学習状況調査」大阪市立長吉南小学校の結果概要

【国語】＜平均正答率＞ 59%（市比0%/全国比-1.9%）＜無解答率＞2.0%（市比+0.8%/全国比+1.4%）

【算数】＜平均正答率＞47%（市比-9.0%/全国比-9.4%）＜無解答率＞1.2%（市比+2.5%/全国比+2.0%）

国語の正答率は大阪市と同じ結果であった。正答率のボリュームゾーンは大阪市・全国より若干左寄りであるが、正規分布に近い分布を示している。しかし、内容的に得意と不得意が顕著に表れる傾向があった。算数の正答率は大阪市・全国に比べて低い。内容的に「図形」の問題では特に課題が見られた。国語・算数ともに無答率は大阪市・全国に比べて少なく、回答意欲は高いと考えられる。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

【国語】「読むこと」72.9%（市比+6.9%/全国比+7.0%）や「情報の扱いに関すること」58.6%（市比+5.4%/全国比+7.0%）、回答方式では「記述式」60.0%（市比+5.2%/全国比+5.1%）の結果が大阪市・全国平均共に大きく上回り力の伸びが現れていた。

本校では5年間、国語を研究教科とし昨年度からは説明文を基に取り組んでいる。叙述から内容や文章構成を捉え、要約やまとめる学習活動を多く進めたきたが、その成果が現れてきたと考えられる。しかしながら、漢字の問題では無答率が高くなり、平均正答率も大阪市・全国平均より低い結果となった。その差も大きく、漢字を含めた基礎的言語力をベースに国語力を伸ばすことが今後の課題である。

【算数】全領域において大阪市・全国平均を下回った。特に、平均正答率において「図形」39.6.0%（大阪市比-14.9%/全国比-15.7%）また、「思考・判断・表現」33.3%（大阪市比-11.7%/全国比-12.1%）でその差が大きかった。無答率は低いが、正確に答えを導き出しているとは言えない。正規分布にはならず、ボリュームゾーンはかなり左に寄っている。基礎学力の向上を徹底し全体的なベースアップにつなげ、低位と高位の差を縮める必要がある。

質問調査より

「学校に行くのは楽しい」「普段の生活で幸せな気持ちになる」「人の役に立つ人間になりたい」「いじめはどんな理由があってもいけない」「学級で人と違う意見を言っても否定されない」などで大阪市・全国平均に比べ肯定的回答が多かった。生活での満足感や自己有用感、正義感、意見の受け入れなどに肯定感が高く、互いの良さを認め合いながら集団生活を楽しく過ごしていると考えられる。一方、スマホでのゲームや遊び、SNSの動画視聴時間については大阪市・全国平均に比べかなり多く、「朝食」や「就寝・起床」などの基本的生活習慣が整っていない割合が高い。勉強時間は短く「全くしない」「1時間より少ない」が60%、読書も「全くしない」に30%以上が回答している。家庭生活における生活習慣への課題に対応しながら、学力や学習意欲の格差を縮小し、生活面・学習面共にベースアップを図ることが必要である。

今後の取組（アクションプラン）

- ・「みなみタイム（朝学習）」において反復学習を基に基本的学習内容と基礎学力を身に付けさせる。
- ・特に算数では習熟度別少人数学習を基に効果的な個別対応を継続する。
- ・自主学習の取組を進め「学び方」「学習習慣」を身に付けさせる。自分の課題に応じた学び方を自身で決めて学習を進める力を伸ばす。
- ・1人1台端末を使った自主学習のあり方を研究・工夫し効果的な個別最適化につなげる。
- ・スクールアドバイザーと連携を深め、児童の実態に応じた効果的な授業に向け、改善策を研究・工夫し実施する。
- ・家庭生活での生活習慣を改善するために、児童への指導はもとより、保護者への啓発を継続して行う。